

平成 30 年度会員向けアンケート調査結果報告

社会局長 羽田晋也

調査資料部長 田竈慶一

昨秋に実施いたしました平成 30 年度会員アンケート調査について、共通設問の集計結果を以下に報告いたします。

報告内容

1. 事業概要
2. アンケート回収率
3. 回答者の構成
4. 動向調査
5. まとめ

1. 事業概要

対象は休会者を除く全会員であり、郵送にてアンケート用紙を配布した。回答方式はマークシートで、返信用封筒にて回収後、印刷会社（株式会社ひまわりぷりんと）に依頼し集計を実施した。アンケート設問冊子は全 47 問 11 ページであった。内訳は共通設問が 22 問（表 1）、高齢者保健福祉部より 12 問、会誌編集部より 7 問、福利厚生部より 6 問であった。

表 1. 共通設問

- 問1. あなたの年齢は？
- 問2. あなたの性別は？
- 問3. 配偶者はいますか？
- 問4. 理学療法士の資格取得後、経験年数は何年目ですか？
- 問5. 役職に就かれていますか？
- 問6. 主たる職場での年間所得(税込)はおよそどれくらいですか？
- 問7. 今のあなたの職場での、理学療法士として自身の年間所得は妥当なものと思いますか？
- 問8. 問7で「妥当と思わない」と答えられた方はいくらが妥当だと考えますか？
- 問9. 最終学歴は次のうちどれにあたりますか？
- 問10. あなたが現在所属する主たる職場は次のうちどれにあたりますか？一番近いものをお選びください。
- 問11. 問10で1～5と回答された方にお聞きます。所属病院には、次のうちの病棟がありますか？
- 問12. あなたの職場の施設基準は以下のどれですか？該当する項目をすべてお選びください。
- 問13. あなたの所属するブロックはどこですか？
- 問14. これまでにご自身が所属するブロックの活動に参加したことがありますか？
- 問15. これまでのブロックは廃止され、「市区町村理学療法士会」ができることをご存知ですか？
- 問16. あなたが所属する「市区町村理学療法士会」にどのようなことを期待しますか？
- 問17. 現在、理学療法士としてのスキル向上のために、日常の業務以外であなたが実施していることは何ですか？
- 問18. 現在、おかれている環境で問17のような活動を継続する場合、それを阻害する要因となるものは何ですか？
- 問19. 日本理学療法士協会が主導する現行の生涯学習制度(新人教育プログラム、認定・専門理学療法士制度、地域包括ケアシステム推進制度、協会指定管理者制度)には関心がありますか？
- 問20. 新しく設立された「大阪府理学療法士会生涯学習センター」をご存知ですか？
- 問21. どのようなテーマの研修や講習会を希望されますか？
- 問22. その他、大阪府理学療法士会の事業・活動に対してご意見があればお書きください。

2. アンケートの回収率

アンケートは府士会員 7,712 名に配布し、3,032 名より回答を得た。回収率は 39.3%で昨年度 (37.9%) と同程度であった。

3. 回答者の構成

前年度までの流れに従い、回答者の構成について報告する (表 1, 問 1~12, 順不同)。

1) 年齢および性別

回答者の構成を年代別にみると、20 歳代が 45%、30 歳代が 31%、40 歳代が 18%となっており、これらの世代で全体の 90%以上を占めた。また男女別にみると、女性では 20 歳代の割合が 56%と過半数を占めていた (図 1)。

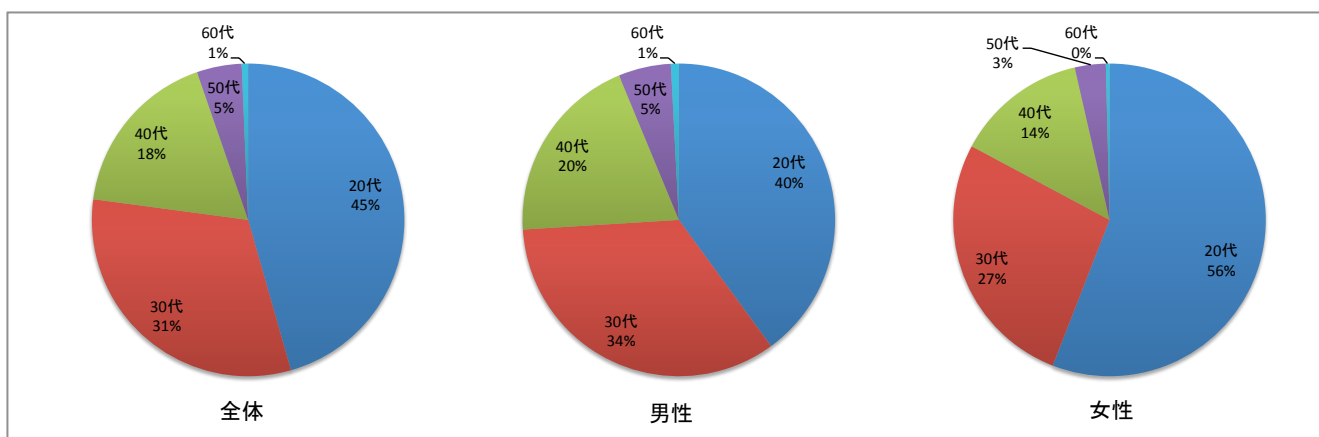


図 1. 回答者の構成

男女比は、全体では男性 65%、女性 35%であった。年代別にみると 20 歳代では男性 57%、女性 43%であったが、30~60 歳代では男性が 70%以上を占めた。

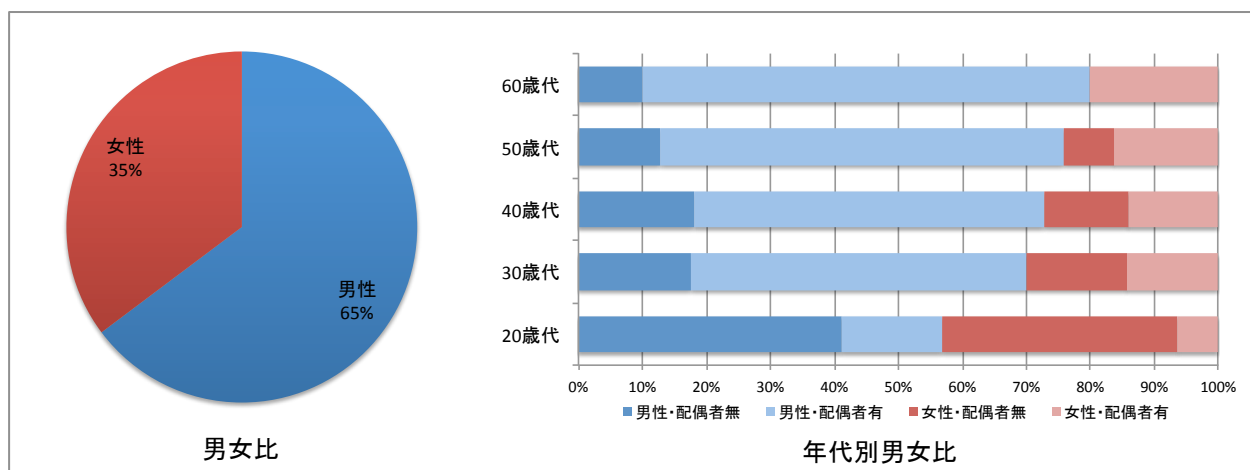


図 2. 男女比および配偶者の有無

回答者の年齢構成について、過去 5 年間の推移を図 3 に示す。昨年までは 20 歳代の回答者数の割合が減少していたが、今年度は 20 歳代の人数が増え割合も高くなった。

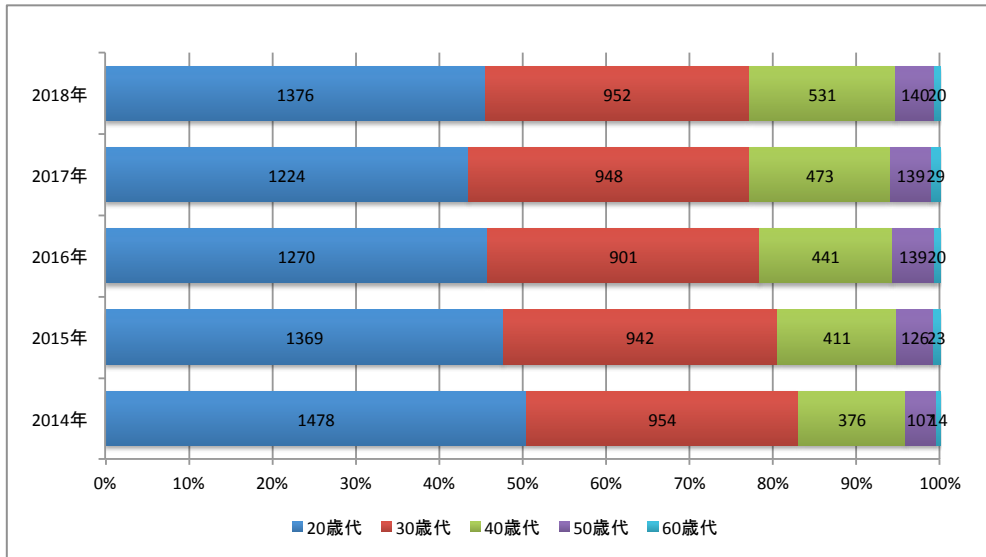


図 3. 回答者の年齢構成（5 年間の推移）

2) 最終学歴

回答者の最終学歴は、専門学校が 44%、大学（短期大学 4%、大学院 7%を含む）が 56%であった。

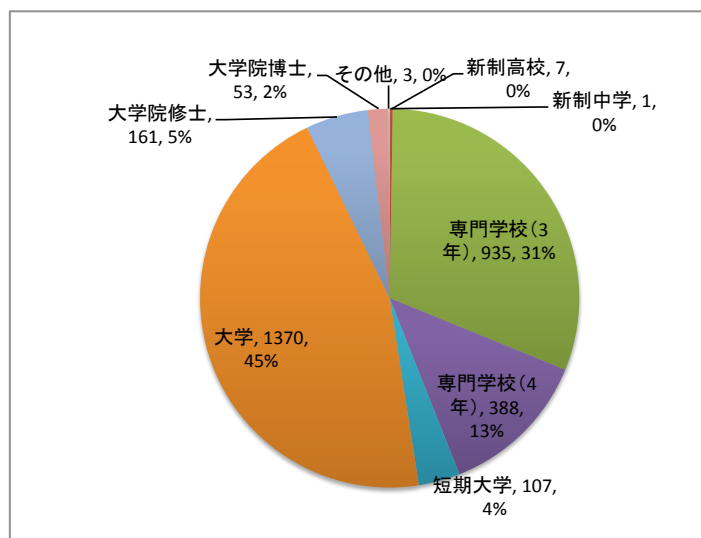


図 4. 最終学歴

3) 役職の有無

回答者の中で役職に就いている人は全体の28%であった。年代別にみると、40歳代以上では50%以上を占めていた（図5）。

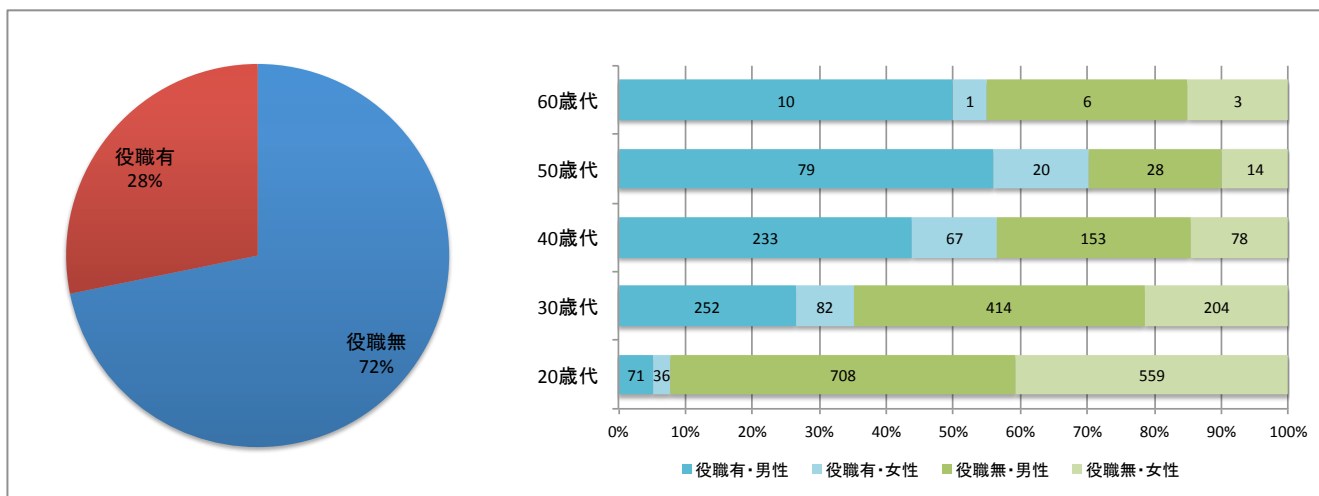


図5. 役職の有無

4) 年間所得（税込）

年間所得（税込）について、最も回答が多かったのは300～400万円で、次に多かったのが400～500万円であった。また、所得が妥当かどうかについては、400～500万円以下では「妥当でない」と感じる人の方が多く、500～600万円以上では「妥当」と感じる人の方が多くなった。経験年数でみると、5～9年では「妥当でない」との回答の割合が最も高くなっており、20～29年では妥当と感じる人の方が多くなった。

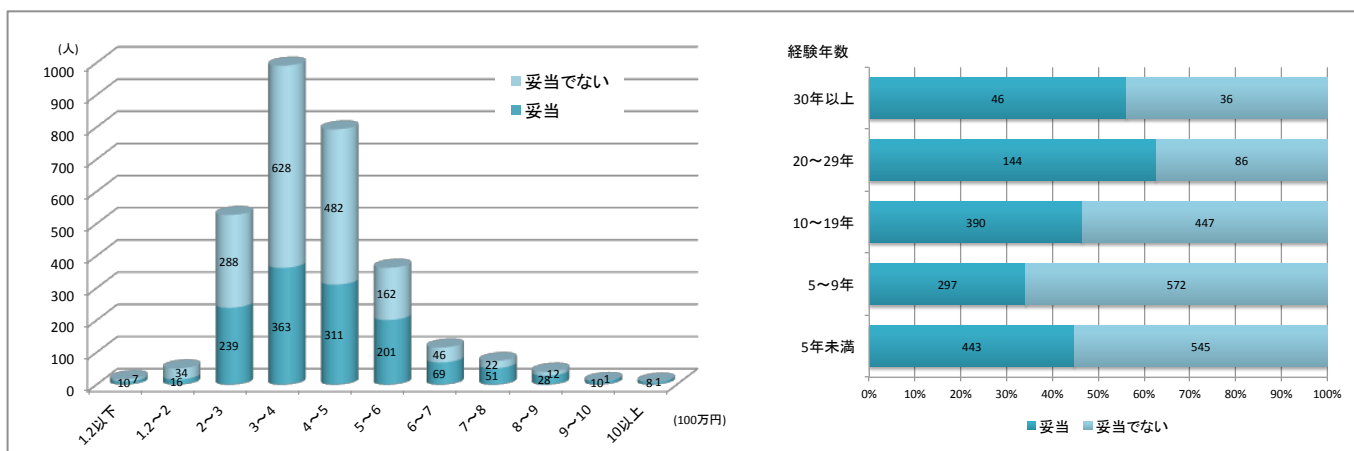


図6. 年間所得と金額が妥当と思うか

5) 職場

図7のグラフは現在所属している職場について、回答の多かったものを示している。これは昨年度までと同様であった。

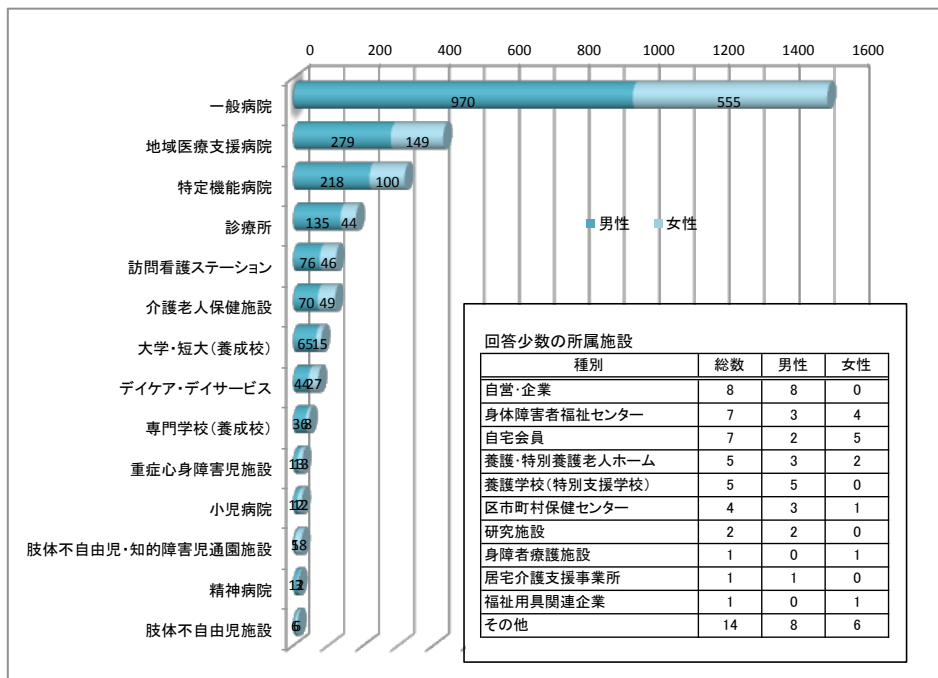


図7. 現在所属している職場

4. 動向調査

1) ブロック活動への参加

ブロックの活動への参加については、およそ70%の人が「参加したことがある」と回答した。ブロック毎の結果も合わせて図8に示す。44名が「所属ブロックが不明」と回答した。

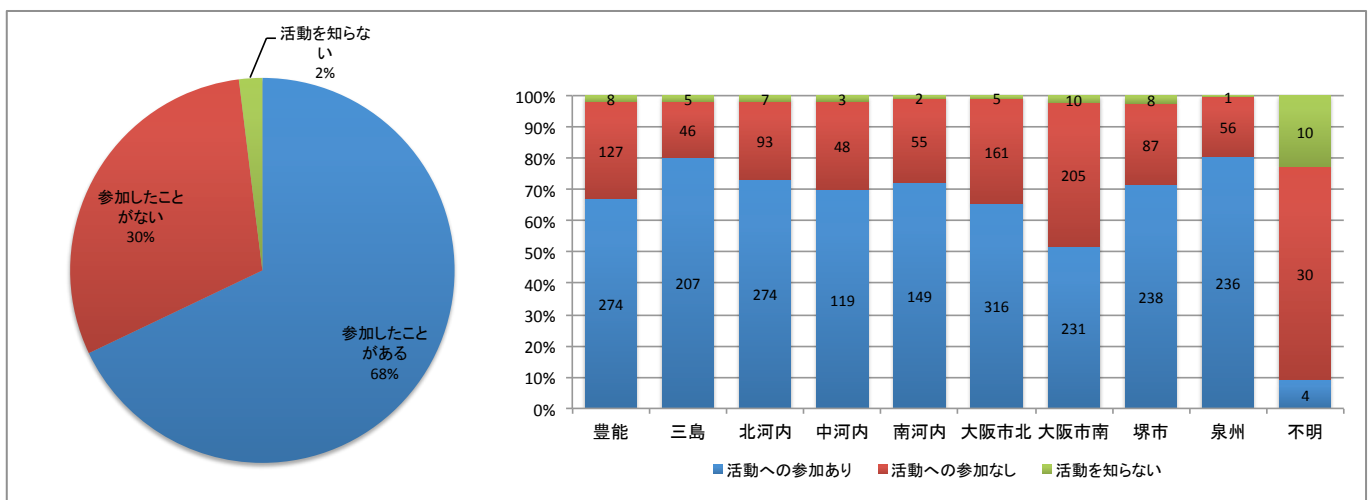


図8. ブロック活動への参加

2) 市区町村理学療法士会について

ブロックが廃止され市区町村理学療法士会ができることについては、「知っている」との回答が約 60%であったブロック毎の結果を右に示す（図 9）。

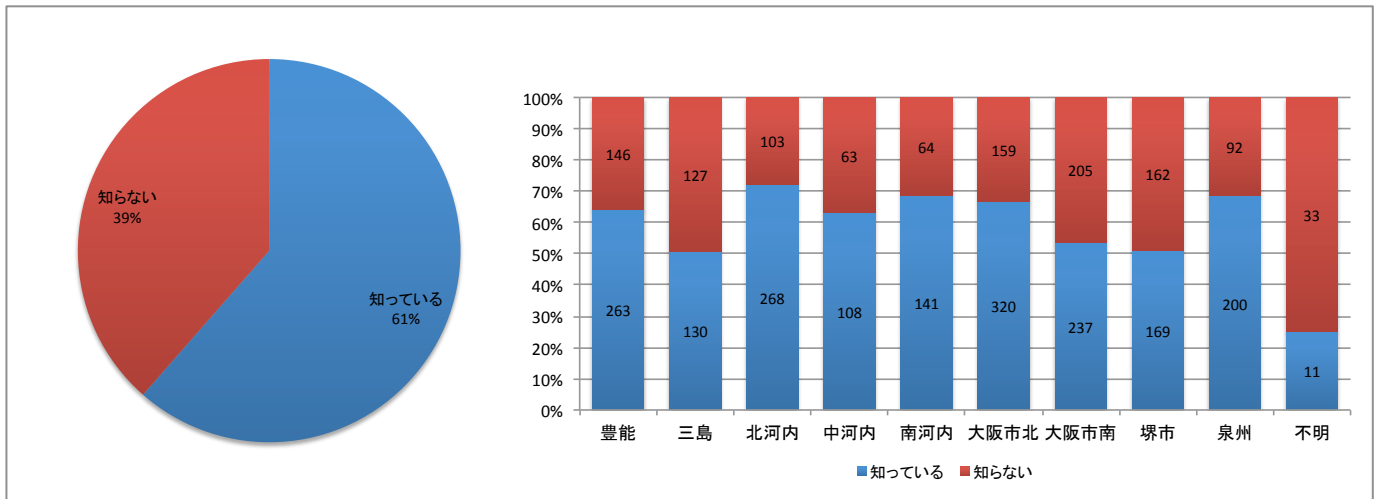


図 9. 市区町村理学療法士会について

また、市区町村理学療法士会に期待することとしては、「研修会の開催」が最も多く、次いで「他の関連職種や行政機関との連携」であった。また経験年数別にみると、特に 10 年未満では「研修会の開催」の割合が高い傾向がみられた。

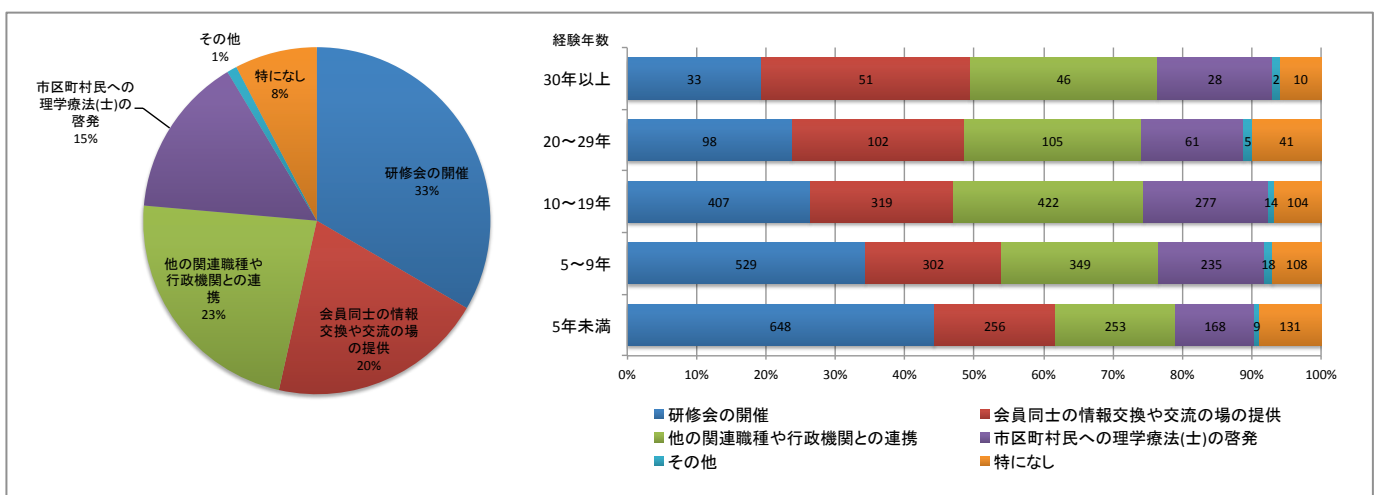


図 10. 市区町村理学療法士会に期待すること

3) 職能（スキル）向上のための取り組み

スキル向上のために日常業務以外で取り組んでいることとしては、「書籍やWebメディアによる自己学習」と「職場内の勉強会への参加」が最も多く約20%で、「講習会への参加」が15%程度であった。「学術大会への参加」は経験年数が上がるにつれ割合が高くなった。

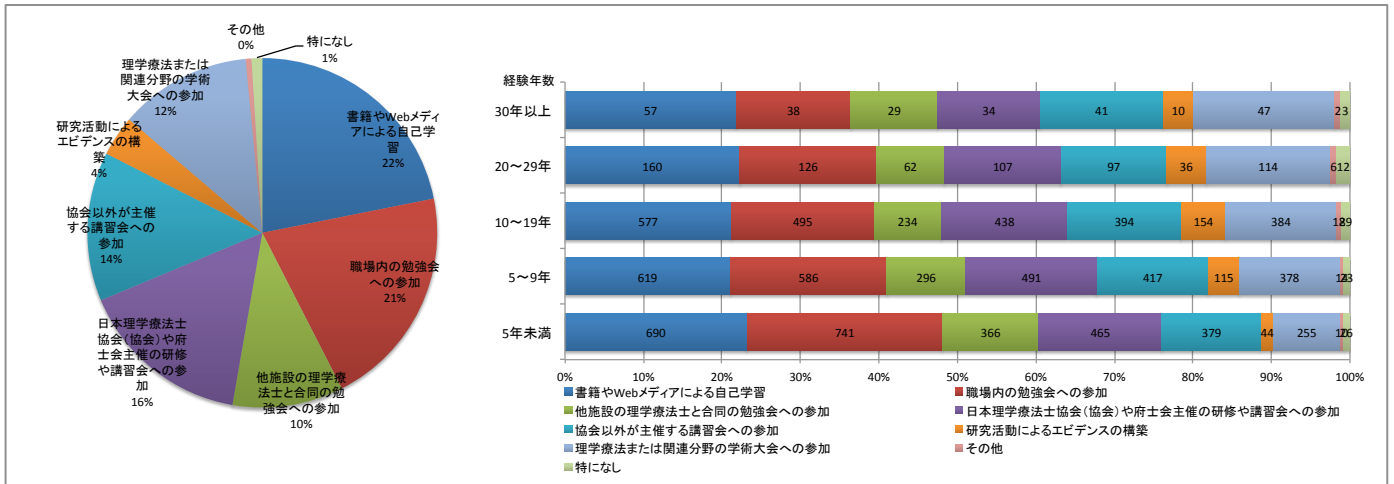


図 11. スキル向上のための取り組み

そのような活動を阻害する要因としては、「勤務体制（シフト）による参加困難」や「業務量が多く時間がない」との回答が20%を超えた。次いで、「開催地が遠い」との回答も多かった。また、経験年数が10~19年では「家事・育児・介護により時間が取れない」との回答が最も多く約25%を占めた。その他としては、「費用が高い」との回答もみられた。

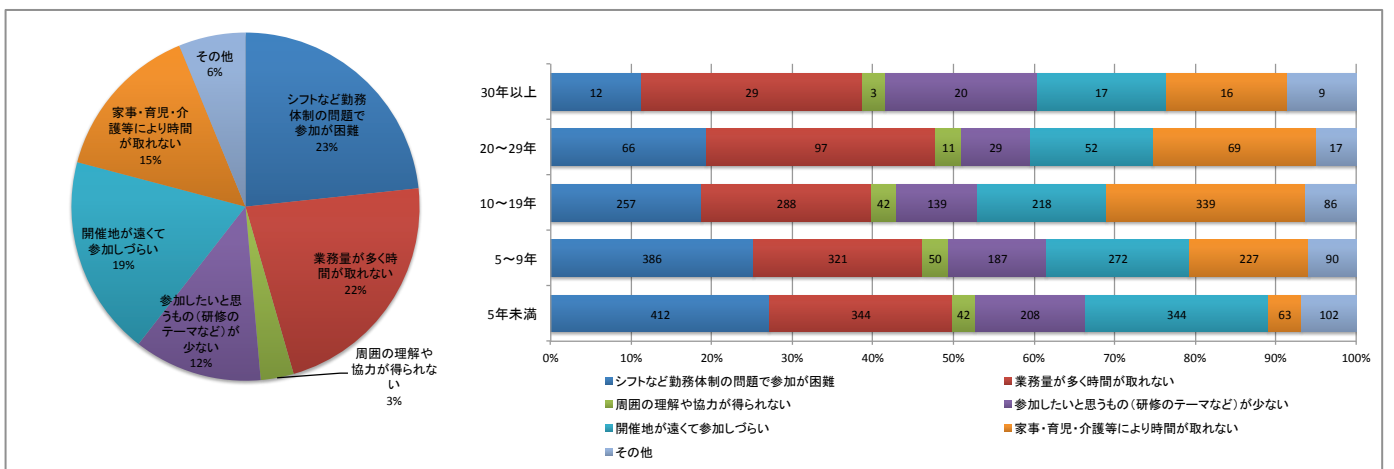


図 12. 活動を阻害する要因

4) 現行の生涯学習制度について

日本理学療法士協会が主導する生涯学習制度（新人教育プログラム、認定・専門理学療法士 制度、地域包括ケアシステム推進制度、協会指定管理者制度）については、約 75%の人が「関心がある」と回答した。

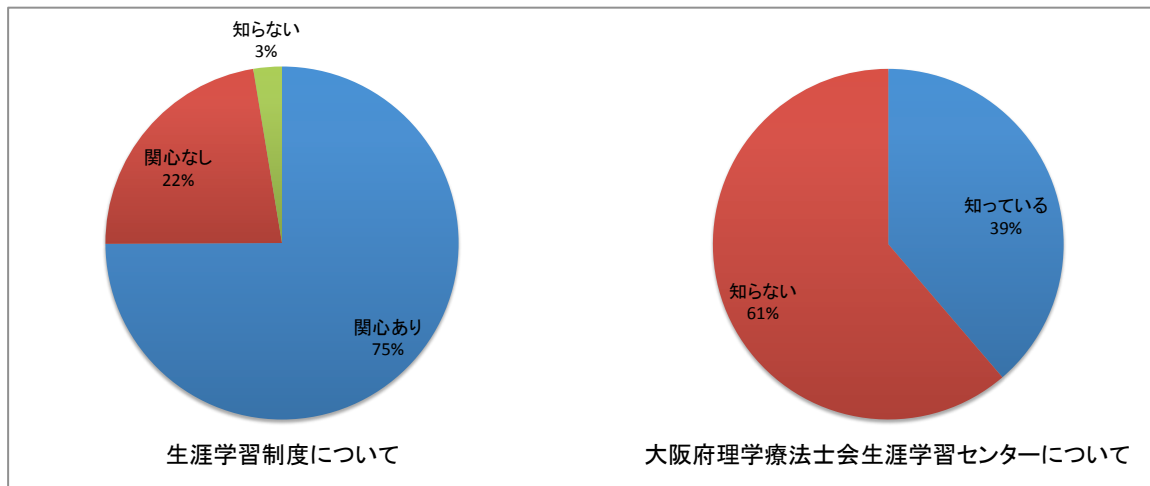


図 13. 生涯学習制度および大阪府理学療法士会生涯学習センターについて

5) 大阪府理学療法士会生涯学習センターについて

新しく設立された「大阪府理学療法士会生涯学習センター」について、「知っている」との回答は 39%であった。

希望する研修や講習については、「基本的な治療概念・技術」と「実技形式の研修」が約 30%を占めた。次いで「医療・介護保険制度」が約 15%であった。

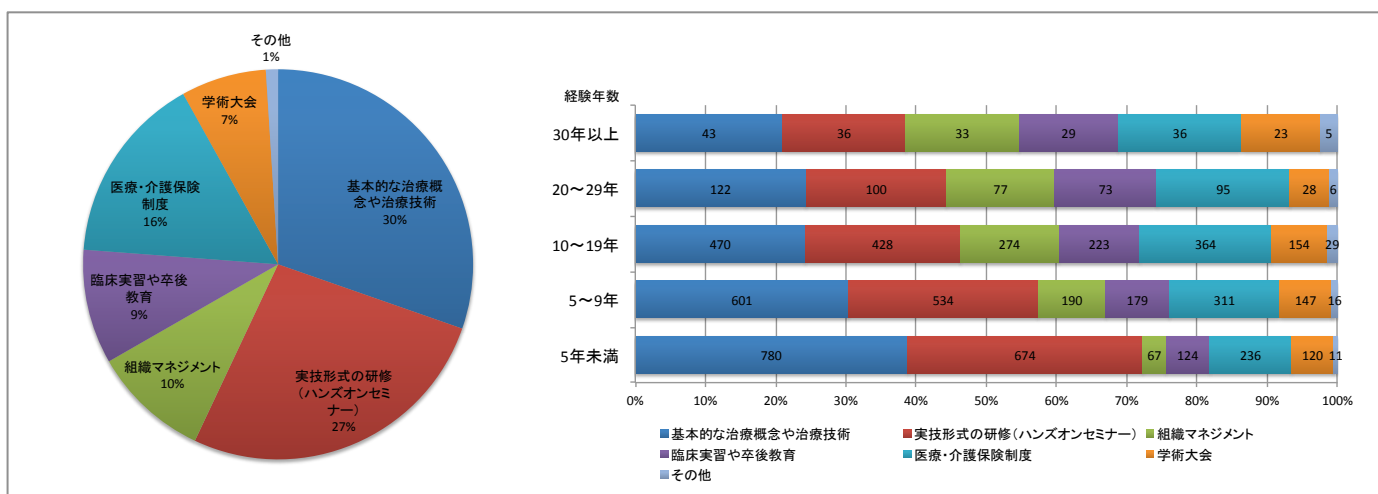


図 14. 希望する研修や講習

6) その他の府士会活動に対する意見（自由記載）

府士会活動への意見としては、「年会費や研修費が高い」、「会員であることのメリットが感じられない」、「研修の方法や内容について（映像やeラーニングの活用、予防・スポーツ・ウィメンズヘルスなどの分野の研修、保険制度など）」、「活動の効率化に関する意見（アンケートやニュースのWeb化、ホームページの改善）」などがあった。市区町村理学療法士会の運営について不安を感じるとの意見もあった。

5. まとめ

アンケート回収率は39.3%と昨年と同程度であった。回答者の構成も昨年度と同様であり、女性の回答者は20歳代が半数以上を占めた。また、近年減少傾向であった20歳代の人数・割合が今年度は増えた。その他、回答者の役職、最終学歴、所得、所属先についての設問については、昨年と同様であった。所得に関しては、経験年数別にみると5～9年で「妥当でない」と感じている人の割合が最も高かった。経験や技術を積み重ね任される仕事量が増えてくる時期であり、結婚等のライフイベントがある時期でもあるため、時間の余裕も十分ではなくなることが原因の一つと考えられる。Webの活用などにより効率よく情報共有や知識・技術の習得が可能となるよう会員をサポートしていくことが今後必要と思われる。

今回はブロック活動や市区町村理学療法士会についての設問を設けた。市区町村理学療法士会の認知度は60%程度であり、ブロックの活動に参加したことのある人には概ね認知されていると思われた。一方で、自由記載の意見から今後の市区町村理学療法士会の活動がどうなるのか不安を抱いていると会員もまだ多いと感じられた。また、現在協会が主導している生涯学習制度については興味を示している人が多いことがわかったが、大阪府理学療法士会生涯学習センターの設立については、周知度が40%程度でありまだ十分に知られていないことがわかった。